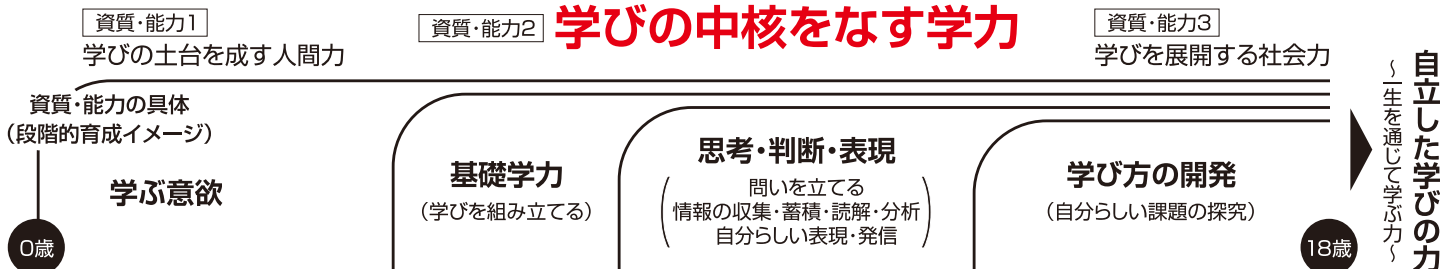


第2期しまねの学力育成推進プラン 令和7年度 重点アクション

第2期しまねの学力育成推進プランで、年度毎に示す重点アクションを参考に、学校の実態に応じた取組を推進してください。

しまね教育振興ビジョン



子どもが「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくり

目標	推進項目(◎:令和7年度 重点アクションとの関連)
1 基礎学力を育成する授業づくりの推進	・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・めあてと振り返りを大切に授業の推進 ・学習する意義や必要性などを実感できる場面の設定 ・全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善と改善状況の検証(◎)
2 学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進	・問題発見・解決能力を育む授業の推進(◎) ・授業の学びと家庭学習をつなぐ工夫
3 幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進	・子どもたちが、探究の過程を通して自ら学びを深めていこうとする力を育てる授業づくり(◎) ・それぞれの学校種間での学びの連続性・発展性をふまえ、学びの積み重ねを意識した授業づくり
4 ICTを効果的に活用した授業づくりの推進	・児童生徒が一人一台端末等を学びに生かすことができる授業づくり ・教職員のICT活用指導力の向上(◎)
5 多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくりの推進	・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の工夫(◎)

めざす授業

アクション① 問題発見・解決能力を育む授業

全ての教科で大切にしたい学びの過程

- ① 「問い」をもつ
- ② 課題の設定
- ③ 課題の追究
- ④ まとめ・表現
- ⑤ 取組の振り返り・価値づけ

●「問い」をもつとは

学習の中で、疑問に思うことや知りたいことなどを自分自身で発見し、言葉で表現することです。「問い」をもつことで、児童生徒は自分の興味や関心に気づいたり、明らかにしたいことを見つけたりすることができます。

- 例)「この現象は地球にどんな影響を与えるのかな?」(理科)
「楽しい感じを出すために工夫ができないかな?」(音楽)
「相手にもっと伝わりやすい言い方はないかな?」(英語)

●課題の設定

課題の設定とは、「問い」を解決していくために具体的に取組むべきことを明らかにすることです。

- 例)「まずは、10年間の温度の変化を調べてみよう。」
「同じリズムが続くから、細かいリズムも入れて試してみよう。」
「より伝わりやすい言い方を考え、友達と練習してみよう。」

【児童生徒の学びの姿】

- ・物事に自ら関わり、「問い」をもつ。
- ・解決方法を探し、追究のステップを計画する。
- ・知っていること・できることを活用しながら課題解決をし、表現する。(時にひとりで、時に仲間と)
- ・取組を振り返り、新たな問題を発見する。

【授業の工夫】

- ・児童生徒が「問い」をもつことができるテーマ・教材・授業展開・発問等の工夫

「*「問い」のパターンや「考えるための技法」を活用しながら、「問い」をもつためのヒントを提示する
*知っていることの「すれ」「隔たり」を感じさせる
*対象への「あこがれ」「可能性」を感じさせる
*自分や友達への「期待」を感じさせる

- ・「学びの過程」を学ぶ単元と「獲得した「学びの過程」を活用する単元」を意識し、重点化して実践
- ・児童生徒が学習の「学びの過程」に活用可能な知識・技能を保障

【「大切にしたい学びの過程」を活用する場面の工夫】

「大切にしたい学びの過程」が、自分の生活や地域社会の課題解決等、様々な場面で活用できるという気づきが、自ら学びを深めていく楽しさや「もっとやってみたい」という児童生徒の思いを育てます。幼・小・中・高校を通して、「大切にしたい学びの過程」を活用する学習場面や経験の積み重ねを意識することで、児童生徒に「自立した学びの力」を育てます。

各教科で 学校行事で 児童会・生徒会活動で
遊びで(幼児教育施設) 学級活動で 部活動で
総合的な学習(探究)の時間で 家庭学習で

- ・児童生徒が自分で「学びの過程」を活用できるようにするために
*児童生徒が「なぜ」「どうして」を安心して話せる雰囲気づくりを大切に
*児童生徒が様々な場面で「なぜ」「どうして」と問いかける習慣づけを大切に

授業を支える

アクション②

全国学力・学習状況調査を活用した授業改善

1. 全教員で問題を解く
全教員で全国学力・学習状況調査の問題を解き、各問のポイントや求められる力を共有する。
2. 結果分析と課題特定
自校の調査結果の解答類型から児童生徒のつまずきの要因を把握し、改善が必要な単元や重点課題を特定する。
3. 改善内容と方針の協議
改善内容、児童生徒の具体的な変化の姿、具体的な評価(方法・時期など)を協議し、自校の取組方針を決定する。
4. 授業の実施
協議で構想した改善内容を基に授業を実施する。
5. 改善状況の検証
児童生徒の変容を具体的な評価問題等を用いて検証する。

アクション④

子どもが自分に合った学び方を選択できる授業づくり

学び方や理解の仕方、発達の状況には個人差があることを踏まえ、学習者の視点に立った授業づくりを行う。

【学習者の視点に立った授業の例】

- ・子どもの発言や表現の様子、成果物や各種調査等を通して、多面的多角的に実態把握を行う。
- ・学習指導要領の各教科等解説「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」等を意識する。
- ・子どもが自ら教材・方法・学習進度等を選択できる学習環境をデザインする。
例) 多様な方法を認める風土づくり
学習者用デジタル教科書、音声教材、ICTの活用、ワークシートなどの工夫
学習集団や場所、時間の柔軟な設定 など

教育センター研修等を生かす

- 【1135】通常の学級における多様な学びを支える基礎講座 他
【特支課】LDのある子どもの多様な学び推進事業(オンデマンド)

アクション③

ICT活用指導力向上に係る研修での学びを生かした授業づくり

- ・県教委が実施する能力開発研修・経験年数に応じた研修・出前講座、校内研修等で習得したICT活用の知識やスキルを、授業づくりに活用する。
- ・ICT活用を推進するリーダー教員のための研修における学びを、校内に普及する。

【授業におけるICT活用例】

- ① 考えを共有したり比べたりする場面を設定する。
- ② 考えをまとめ、発表・表現する場面を設定する。
- ③ ①②の場面を中心に、一人一台端末やクラウド上のソフトウェアを活用する。
例) 汎用クラウドツールを活用した情報のやり取り



参考「情報活用能力育成の目安」(EIOSより)

教育センター研修等を生かす

- 【1332】校内の情報化を進めたい教員のためのICT活用推進実践講座
- 【1268】ICT活用推進リーダー研修
- 【1287】クラウドの強みを生かした授業デザイン講座
- 【1291】授業で育み活かす!子どもの情報活用能力育成講座
- 【1289】AI時代の教育情報セキュリティ講座 他

教育センター研修活用のススメ

「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくりを進めるために、教職員研修を活用してください。

県教育委員会が実施する教職員研修のうち「能力開発研修」(全150講座)は、教職員が自発的に参加し資質能力の向上を図る研修です。実施日の2か月前まで申し込むことができます。

二次元コードから一覧をダウンロードできます。



重点アクションの評価参考指標と目標

アクション	評価参考指標		目標
アクション1	授業では、児童生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている	全国学力・学習状況調査	令和8年度の肯定的回答割合が、令和7年度比増 (アクション1~4) 平均正答率が全国値以上 (アクション2)
	小中義:総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	
	高:地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いなから調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいると思う生徒の割合	高校魅力化評価システムアンケート	
アクション2	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査質問調査 <ul style="list-style-type: none"> ①国語、算数・数学の授業の内容はよく分かると思う児童生徒の割合 ②国語、算数・数学の勉強は好きだと思う児童生徒の割合 ・全国学力・学習状況調査の平均正答率(国語、算数・数学) ・全教員で問題を解き、各問のポイントや求められる力を共有した学校の割合[取組指標] 	全国学力・学習状況調査	
アクション3	学習の中でICT機器を活用することについて <ul style="list-style-type: none"> ・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思う児童生徒の割合 ・自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができると思う児童生徒の割合 	全国学力・学習状況調査	
アクション4	中学校1、2年生のとき(小学校5年生)までに受けた授業は、自分にあった考え方・教材・学習時間になっていたと思う児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	